

報道各位

イベント開催のお知らせ

KCIC WORKSHOP リサーチプログラム

「わたしたちの地域辞典をつくるワークショップ」

講師：平川 渚

2015年11月14日(土) 14:00～16:00 開催

かごしま文化情報センター(KCIC)では、2013年のオープンより、市民を対象にしたワークショップを継続的に行っています。そしてこのたび、鹿児島市役所周辺を楽しく調べる「**KCIC WORKSHOP リサーチプログラム 『わたしたちの地域辞典をつくるワークショップ』**」を開催いたします。

新しいお店も増え、いま注目の地域 市役所周辺。鹿児島島の魅力が浮かび上がる地域独自の辞典を作成！
ここでは、街がどのようなもので構成されているかを意識しながら歩き、写真を撮って、それを五十音順に並べます。被写体は、建築物や標識、また風景や人物など、どのようなものでも対象物になりますが、撮影したものに「○○な××」といった何かを説明するための修飾する言葉をつけなければなりません。

「対象物をどう言葉にするか？」を気にしながら街を見ること。それは、視覚と言語の2つを常に意識していくことになり、参加者は新たな視点を獲得します。また、「歩くハト」や「白くて長いひげ」といった、撮影者が対象物をどう表現するか、によってバラエティに富んだ写真と言語を収集することができ、「個」の視点をあらわにするオリジナルな記録を構築することでしょう。

ぜひこの機会に、本企画を貴媒体にてご紹介をご検討いただけますようお願い申し上げます。

あ 	い 	う 	え 	お 
か 	き 	く 	け 	こ 
さ 	し 	す 	せ 	そ 
た 	ち 	つ 	て 	と 
な 	に 	ぬ 	ね 	の 



辞典サンプル(上)、撮影風景(下)

KCIC WORKSHOP とは?

かごしま文化情報センターが、スタッフでアーティストの平川 渚を講師に行う長期プログラム。2013年のオープン当初より、市民とともに、作品制作や街をリサーチするワークショップを実施してきました。今年は作品制作やリサーチに加え、県内外のアーティストを迎えたゲストアーティストプログラムも行います。

開催概要

1. 日 時：2015年11月14日(土) 14:00～16:00
2. 定 員：10人 ※要申込み
3. 参加費：無料
4. 対 象：どなたでも(小学3年生以下は親子でお越し下さい)
5. 持ち物：デジタルカメラ
6. 会 場：かごしま文化情報センター(KCIC)周辺エリア、KCIC
7. 内 容：デジタルカメラを持ってKCIC周辺のエリア(鹿児島市役所周辺)を歩き、この地域がどんなもので構成されているのか探り、撮影します。見つけたものを50音順に編集し、自分たちでこのエリアの辞典を作成します。
8. 問合せ：かごしま文化情報センター(KCIC) TEL: 099-248-8121 MAIL: information@kcic.jp
※内容に関する広報のお問合せ、またご取材の際は、電話またはメールまでご連絡ください。
(開所時間：10:00～18:00 ※日・水曜休所)

主 催：文化薫る地域の魅力づくり実行委員会、鹿児島市
企 画：かごしま文化情報センター(KCIC) アートディビジョン
平成27年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

“ KCIC WORKSHOP リサーチプログラム”とは

アーティストと一緒にテーマをもって街を見ることで、身近な地域の魅力を再発見するプログラム。2013年に開催し、好評だった「写真地図ワークショップ」から発展し、2014年よりスタートしました。新しい施設やマンションができるなか、昭和の風情を残す鹿児島市役所周辺の街を舞台にしたワークショップとして、多様なテーマを基に、講師と参加者が一緒に街をめぐり、変わり続ける街を記録し続けます。

講師アーティスト：平川 渚（ひらかわ なぎさ） <http://www.nagisahirakawa.net>

土地や人々の、目に見えない記憶などをもとに作品を制作。個人の制作と並行してさまざまな年代の人と行うワークショップを学校・美術館・映画館・駅構内などで行っている。2013年鹿児島移住。

例：2014年度 「あたらしい・ちずをつくる」

第1弾 5月12日 テーマ/色 エリア/易居町

参加者各々に「赤」「黄」「青」とテーマを与えて、その色の看板、壁など、目に入るものをデジタルカメラで1時間ほど撮影。その後、所内にて、各自が撮影してきた写真を参加者同士で共有し、“この街”の色相環を制作する。色別に一枚に納められた写真から、さまざまに彩られている街を再認識する機会を創出した。



第2弾 7月1日 テーマ/文字 エリア/小川町

古くから錦江湾に面する港があり、島々との交易も盛んで多様な商店が軒を連ねていたという歴史をもつ街、小川町。そのような時の流れの片鱗を、現在でも色濃く残すエリアを舞台に、参加者はデジタルカメラを持って街に出て、地域の人々の営みが見える看板や標識を撮影。各々の視点で集めた街の文字をコラージュし、一枚の作品にすることで、個人が持つ異なる視点をわかりやすく視覚化した。



第3弾 9月6日 テーマ/音 エリア/山下町

特別講師に打楽器奏者の木下賢也氏を迎え、市役所や郵便局、市電等、特徴的な施設の多い町、山下町の“音”を集めるワークショップを開催。参加者は、手持ちのスマートフォン等で山下町を散歩しながら音を収集し、最後にそれぞれが集めてきた“音”を編集、鑑賞する。目に見えない“音”を様々な角度から収集し、1つにすることで、普段意識をしてこなかった山下町の新しい側面が浮き彫りになった。



木下賢也

中近東打楽器奏者、ハングドラム奏者

1975年生まれ。アラビックパーカッショングループの編成とダルブッカ教室（鹿児島、熊本、宮崎）や、色々な音と一緒にハングドラムの演奏を行う。また、音でコミュニケーションのワークショップや芸術祭での滞在制作等を行い、その地域の身近な音をつなげて作品をつくっている。www.sdo-oak.com

第4弾 10月24日 テーマ/模様 エリア/みなと大通り公園周辺

鹿児島市役所前のみなと大通り公園を対象に、「フロッタージュ（擦り出し）」の方法で街にある壁や道路などの表面を紙に映し取る。触覚を頼りに街を視覚的に記録していく手法で街をつくる素材の多様な表情を細かく切り取っていった。

